

アスパラガス立茎密度の検討

1 目的

アスパラガスは昭和50年代後半に県内でも露地栽培が試みられたが茎枯病の発生により壊滅的被害を受け定着しなかった。

近年、茎枯病対策と長期間収穫できるハウス立茎栽培が定着し、各地で産地化が進んでいる。昨年度までの結果、早期収量確保、成園化には露地育苗が優れていることが実証された。本年度は単収および品質向上を目指した立茎密度の検討を行う。

2 実証内容

- 1) 供試品種 ‘スーパーウェルカム’
2) 区の構成 1区1畦 (37.5 m²) 反復あり

因子	水準数	水準の内容	
立茎本数	2	標準(5本/株)	低密度(4本/株)

- 3) 実証面積 1.5 a (間口 5mパイプハウス)

4) 耕種概要

- ア 播種日 2004年2月24日 72穴セルトレイ
イ 定植日 2005年4月5日 (定植6年目)
ウ 施肥 (2010年)

肥料名	施肥量(kg/10a)		施肥日
	基肥	追肥	
エコロンG 424(140日タイプ)	180.0		3月4日
エコロンG 424(140日タイプ)		75.0	5月7日
そさい3号		37.5	6月8日
そさい3号		37.5	7月6日
そさい3号		37.5	7月29日
有機重焼燐		37.5	7月29日
そさい3号		37.5	8月25日
そさい3号		37.5	10月5日

成分量 (kg/10a) N : 65.7 P : 62.5 K : 62.0

- エ 栽植密度 株間 30cm×畝幅 125cm 1条植え (2,666株/10a)
オ ハウス被覆 3月12日~12月日
カ かん水方法 スミサンスイマルチ 60 2本/畦 ※防草シート未設置
キ 立茎期間 4月28日~6月5日
ク 収穫期間 4月2日~10月6日
ケ 茎葉刈取時期 12月2日

3 結果の概要および考察

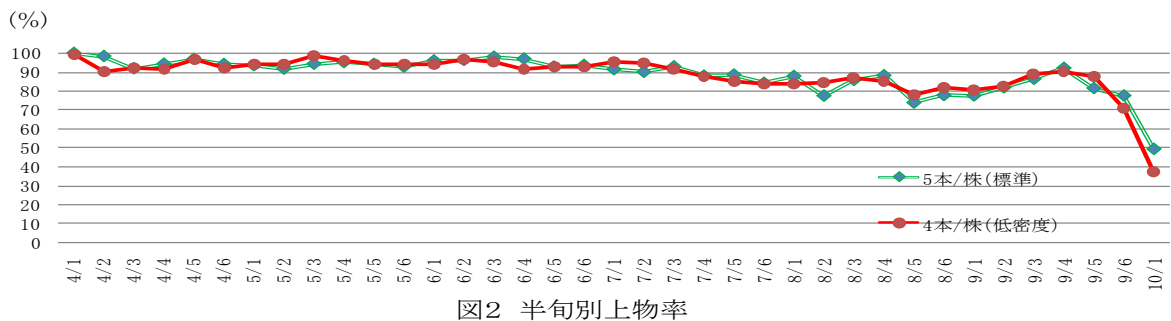
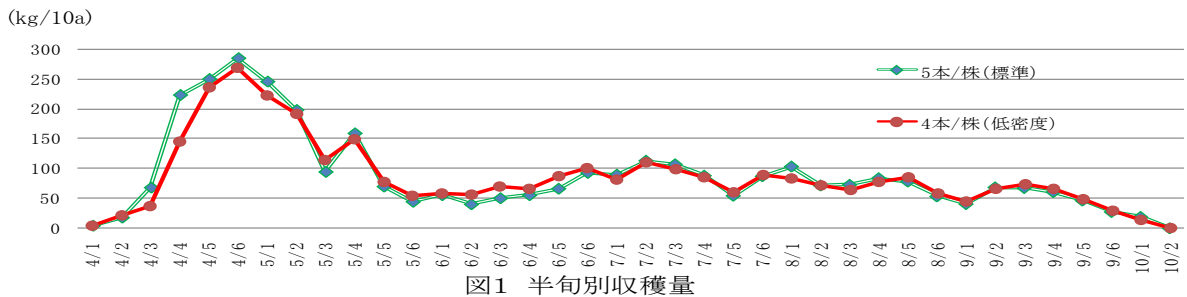
- 1) 総収量は標準区（5本/株）3,323kg/10a（上物収量3,027kg/10a）、低密度区（4本/株）3,298kg/10a（上物収量2,999kg/10a）であった。また、収穫本数は標準区153,178本/10a、低密度区155,038本/10aであった（表1）
- 2) 上物率は標準区が重量比91.1%（茎数比84.8%）、低密度区で重量比90.9%（茎数比83.8%）で1本重は標準区23.3g、低密度区は23.1gでほぼ同じであった（表1）。
- 3) 2008年および2009年の立茎密度は、それぞれ6~8本/株と3.3本/株であるが、いずれも本年より収量が少なかった。（表1）
- 4) 時期別収量は、5月初旬までの春芽では標準区が上回ったが、5月上旬以降の夏芽は低密度区が上回った。（図1）。
- 5) 上物率を収穫期毎にみると7月以降の夏芽収穫期に上物率が低くなる傾向が見られたが、区による差はなかった。（図2）

以上の結果、標準区は低密度区よりも春芽収量が多く、年間収量も多いことから立茎密度は5本/株が適当と考えられる。

【具体的データ】

表1 立茎密度と収量および品質

区名	収量(kg/10a)		上物率(%)	収穫本数(本/10a)		上物率(%)	平均 1本重(g)
	総収量	上物		総数	上物		
標準(5本/株)	3,323	3,027	91.1	153,178	129,957	84.8	23.3
低密度(4本/株)	3,298	2,999	90.9	155,038	129,849	83.8	23.1
2009年(3.3本/株)	2,295	1,483	64.6	119,314	68,874	57.7	21.7
2008年(6-8本/株)	2,815	2,032	72.2	124,422	76,249	61.3	26.8



4 調査研究結果の活用方法

福井県でのハウス立茎栽培における栽培指針作成に向けた基礎データとして活用する。

5 残された問題とその対応

ハウス内トンネル被覆により収穫を前進化させ、収穫期間を延長し収量向上を目指す。